こんにちは

白子の議会

です

第138号
令和2年12月3日

編集発行
千葉県白子町議会
☎0475(33)2169

▲ 元気いっぱいの白潟保育所の児童たち

第3回 定 例 会

令和2年第3回定例会が9月10日に開催されました。
一般質問は、5名の議員が町政をただしました。

5議員が一般質問 ･･････････････････････････ 2～6ページ
補正予算等の質疑応答
こんなことが決まりました ･･････････････････ 7～8ページ

一般質問
町政をきく

公共事業の予算計上と入札制度の在り方について
東海林　東治　議員

議員　公共工事の予算計上する見積り、予算価格を決定する設計書に関する見積書は、白子町においては、特定業者１社の見積りで確定しております。

本来、入札の予定価格は、複数業者からの見積りと、専門職員がいない場合は、県に委託、または第三者機関を利用して公平で適正価格を決定する必要があります。

財務規則に明示されており、その見積りを検討し、適切な予定価格を機密としての入札の流れが出来るはずです。

当該入札の公正を害する行為を行った職員は、免職、停職の罰則規定があります。白子町の入札制度に公平、公正、機密性が担保されているか、今後改善すべきと思います。見解を伺います。

法に基づく公共工事

町長　白子町財務規則により、私が予定価格を決めております。これは、町の技術職員または、委託業者が積算した設計書により予定価格を定め、機密性に基づく入札を実施しております。

公平公正、適正の逸脱

議員　委託業者が設計入札において落札し、その業者１社の見積りで予定価格を決定していることに適正価格と機密性は存在しない訳ですので、見解を伺います。

何ら問題なく実施

町長　電子調達システムを利用して、公平、公正そして機密性に基づき入札を実施しております。

白潟小学校改修工事について

議員　改修工事は発注者側、業者側双方が現地調査を実施し、その調査票を基に改修、必要事項をまとめ、設計、見積り、予定価格を決定するはずです。発注者が現地調査票を作成せず、私が現地調査した内容に不必要工事が多々ございます。

予算ありきの捉え方に疑問を感じます。当局の見解を伺います。

学校長寿命化計画で確認

教育長　確認された老朽化の箇所を設計委託業者と共に再確認し、必要性を判断し実施しているところであります。

償却資産の固定資産税徴収制度について

議員　償却資産の固定資産課税対象は、土地、家屋以外の事業用に供する資産で、構築物、機械、設備等々が課税対象となります。資産の把握は原則的に申告が課税の基本でありますが、補助金交付を受けた農業用ガラス張りハウス等は、当局は当初より認識しつつ見逃していた行為は、住民への背任行為であります。当局の見解を伺います。

申告義務制度重視

町長　償却資産の所有者に申告義務があり、申告を基に課税しております。

また、所有事業者に申告を促しております。

行政のコンプライアンスについて

議員　住民からの悪辣な虚偽記載の調査を当局に提出され、双方より事情聴取すべきことが成されていない点の当局の見解を伺います。

判断違い

町長　詰問とは違い、話を聞いたということです。

スクミリンゴガイの抜本的な防除体制・技術の確立について

大多和　正夫　議員

議員　近年稲作経営の支障になっているのが、ジャンボタニシと呼ばれるスクミリンゴガイです。このジャンボタニシは、1980年代に食用として輸入され商品化にならず廃棄され野生化したものと言われています。
　ジャンボタニシの食害防止は、農家にとって経費と労力の両面で大きな負担となっています。
　今年、福島地区では県補助事業のジャンボタニシ緊急防除対策事業で、地区一体となり取り組んだと聞いております。
　米価の低迷の中、稲作経営の安定化を図るために、農家が個々もしくは共同で取り組める効果的なジャンボタニシの防除体制・技術の確立について、次期作に向けてどのような対応を計画しているのか伺います。

効果的な厳冬期数回の耕うんと圃場の均平化

町長　本年はジャンボタニシの食害が例年に増して発生しており、この対策に悩んでいるところであります。
　福島地区の取り組みは、46haの圃場で水口にネットを張る「侵入防止」「浅水管理」「適期の薬剤散布」「卵塊落し」「厳冬期の耕うん」「冬場の排水路の泥上げ」等であり、事業費は4百9万9千円であります。
　次年度の対策としては、稲刈り後の水田の均平化による浅水管理と厳冬期の2~3回の「耕うん」が効果的であるので、このことを農家に周知していきたい。

水稲のラジコン防除剤に紋枯病防除剤の追加は

議員　水稲のラジコンヘリ防除剤は、いもち病とカメムシ類の防除効果はありますが、紋枯病の防除効果はありません。
　コシヒカリは紋枯病が発生しにくいため当該農薬を選択したと思いますが、近年は飼料用米等の取組者が増加し、全体の30％以上を早生品種が作付されており、早生品種は紋枯病の発生しやすい特徴があります。
　水稲のラジコンヘリ防除剤に紋枯病防除剤を追加することについて伺います。

農家負担増を含めた意向確認が必要

町長　防除事業は、病害虫の発生を抑制し収量の安定化を図る目的で、町全域を一斉に防除しています。実施時期は7月中旬で、最大公約数でコシヒカリに合わせた対応であります。
　現在の薬剤は紋枯病に効果がなく、紋枯病に対する薬剤を加えると10アール当たり3百円程薬剤費がアップします。
　本年も2百円アップしており、薬剤の追加は2年連続の農家負担の増加となりますので、農家の皆さんと協議する必要があります。

散布設備を備えたドローン等の導入について

議員　町の稲作経営体は、5ha以上の規模農家は35経営体、その内10ha以上は12経営体であります。規模拡大農家は、早生品種が栽培面積の30％以上となっています。
　現在の共同防除はコシヒカリを基準とした防除日程であり、適期防除には、品種別の自主防除が必要となり、大きな労力を要しています。
　防除労力の削減に向け、規模拡大農家及び営農組織等への町の支援を含めた農業用ドローンの導入を進めると共に、その機器を利用して防除を受託する体制作りをどのように考えているか伺います。

ドローンは農家・組織の自主防除体制で

町長　適期防除の体制には、ドローン等の新しい機器が必要と思います。ただ、町が機械をもって防除するのは困難であります。
　ドローンの体制は、農家・組織が自主的に導入し、自主防除を行うと共に防除作業の請負が可能な組織育成が必要と思います。国も新しい機器に対して色々な支援体制ができていますので、稲作農家の方々と相談しながら取組みを確実に進めていきたい。

監査報告で時間外勤務の未払いが指摘された

石井　和芳　議員

議員　令和２年３月の定期監査報告で、時間外勤務の支給について改善が求められています。今後の対応はどうするのか伺います。

総務課長　現在調整中であり、今後町長と詳細を詰め、改善します。

３月に一般職員から千葉県公平委員会に出された措置要求が、７月に同委員会より、町に対し是正勧告が出された

議員　毎年10月の第４日曜日に実施されている防災訓練において、職員は８時30分から11時まで勤務しています。しかしその際、職員に対する時間外勤務手当が支払われていなく、賃金の未払い状態になっています。

町当局は、職員の参加はボランティアであり、未払い手当は存在しないと主張していました。しかし７月27日の公平委員会の判定で時間外手当を支給するように勧告が出ています。

次に「ひまわりメール」についても当局の回答として、代休を与えていたので問題ないと答弁していましたが、公平委員会の判定としては、「条例上、時間外勤務を代休付与とは出来ない」と当局の主張が棄却されました。

以上２点、防災訓練の未払い賃金及び、ひまわりメールの時間外手当を過去２年分（労働債権の時効は２年）の支払いをするつもりがあるか伺います。

総務課長　こちらも現在調整中につき後日報告します。

監査委員の指摘事項、公平委員会からの勧告に対する対応について回答

９月30日付総務課からの回答

①防災訓練に参加した全職員に過去２年分の時間外勤務手当を支給する。

②ひまわりメールの担当職員にも過去２年分の時間外勤務手当を支給する。

法治国家であり法令や条例を守らなければならない

町長　町民はボランティアで来ている場合もあり、町民感情も考慮しなければならない。しかし直せということであれば直します。

やはり法令の遵守が基本です

議員　先般の公金横領の不祥事があった際、コンプライアンス・マニュアルを作成し、職員全員に徹底するように提案しました。それにより立派なマニュアルができています。職員よりまず町長自身にもこのマニュアルをよく理解していただきたい。

一般職員が公平委員会に持ち込んだのは、当然にして違法行為であるという確信があったからにほかありません。

先程東海林議員から指摘のあった償却資産の課税免除等法令違反、違法行為がかなり多いように思われます。公務員であるのですからには、憲法・法律を守って行政執行をしていただきたい。

リハビリ跡地の活用は進展しているか

議員　今回活用について、サウンディング市場調査をするそうですが、どういうものか内容を伺います。

初日３グループ、別の日に３グループ、地元企業は１社来た

町長　今回市場調査をして、今後このプロポーザルのあと、いろいろ検討して、総合的に雇用、将来性等を加味して、決定して行きたい。もちろん審査委員会等も設け、広く意見を聞きたいと思っています。

町の実施することは議会に対して、もっとオープンにすべき

議員　白潟小の改修工事もそうですが、補正予算でいきなりでてきました。ブラックボックスの中で行政執行しないで、もっとオープンに真摯に、議会の意見を聞くべきと思われます。

新型コロナウイルス対策 PCR検査体制の実現を

市川 隆子 議員

議員 新型コロナウイルス感染拡大を抑止するためには、PCR検査の規模を増やすしかありません。

郡市医師会の協力を得て、検査センターを設置する必要があると思いますが考えを伺います。

県や医師会と検討

町長 PCR検査センター設置に向けて県や医師会と検討してきましたが、医師会の協力はある程度得られたのですが、場所で県の協力が得られず流れてしまいました。

施設職員へのPCR検査実施を

議員 全国では医療機関、介護施設、保育所、学校などでの集団感染も発生しています。

こうした集団感染を未然に防ぐためにも、関係者全員に定期的な検査が必要だと思いますが考えを伺います。

町独自の検査は考えていない

町長 定期的な検査が必要な方は自主的に検査を行っていますので、町独自の検査は考えていません。

陽性者の個人情報保護は

議員 感染者や関係者への差別、バッシングが重大な問題となっています。

陽性者の個人情報の扱いはどのような状況か伺います。

個人情報は徹底している

町長 感染者の情報は、保健所だけが把握し、絶対に外部に出ないように徹底しています。

インフルエンザ予防接種の補助拡大を

議員 秋から冬にかけて、新型コロナウイルスとの同時流行が懸念されます。

町ではインフルエンザ予防接種助成は、郡市内でも進んでいると思いますが、更なる助成拡大についての考えを伺います。

今回は見送らせていただきたい

町長 インフルエンザ予防接種の助成については、市川議員から提案、要望により中学3年生までの子ども達に拡大したところですので、今回の提案については、見送らせていただきたいと思います。

少人数学級の実現を

議員 新型コロナウイルスによる新しい生活様式の実践例は、身体的距離の確保、マスクの着用、手洗いが推奨されています。人と人との距離の確保が感染リスクを大幅に下げると言われているので、身体的距離の確保が新しい生活様式の第一になっています。

現在の国の制度40人学級では、身体的距離は1メートルも確保できないということです。

少人数学級は、子どもの現状が手厚く柔軟な教育を必要としている流れと、新型コロナウイルス感染対策の流れという2つの流れが合致している要求だと思いますが考えを伺います。

国・県に要望していく

教育長 町内の学級編成は、中学校2年生で38人、白潟・南白亀小でそれぞれ30人から32人のクラスが2学年あり、これを少人数学級で実施できればと考えています。

国でも少人数学級として20人から30人の編成を検討するということですので、関係機関と連携し、早期の実現が図られるよう国・県に要望していきたいと思います。

小学生登下校中の熱中症対策は

議員 夏休みの短縮、温暖化が進むなか、炎天下で登下校する小学生の暑さ対策について考えを伺います。

各学校で工夫を

教育長 登下校の熱中症対策は、気温・湿度が高いときは、対面での対話以外はマスクを外したり、ランドセルの軽量化のため学習用具を学校に置いておくなど、各学校で工夫を凝らしています。

小学校の適正規模・配置について

宗島　理仁　議員

議員　令和元年度の出生者数が白子町合計で34人であり、地区別で見ても、白潟地区が12人、関地区が13人、南白亀地区が９人と、１桁になってしまいました。

この状況が劇的に改善される見込みもなく、令和２年度の出生者数も母子手帳の交付数から見て、年度末までに50人前後と予想ができます。

このような状況の中で、来るべき将来に向け、学校の適正配置、統廃合、教育環境の見直しについて、今後の動向、見解を伺います。

３小学校を維持

町長　学校適正化に関し、現段階では、白子町第５次総合計画に基づいて３小学校を維持するということを目標としています。

地方創生の施策として、町内の出生に加えて、転入者の受入れを目指していますが、現段階では、小規模学校としてのきめ細かい魅力ある教育活動を提供するための策をまず優先して、統合等は考えておりません。

小規模校のメリットをどう活かすか

議員　小規模校の強みを最大限に生かすきめ細かな指導や、マイナス面である人間関係の固定化、序列化、社会性の不足は、今後、現在の取組以上に、新たな工夫で改善をしていかなければならないかと思います。

地域社会の核である小学校の統廃合ではなく、存続するために可能な限り手だてを尽くすための今後の予定、見解を伺います。

きめ細やかな指導の徹底に向けて

教育長　特色のあるきめ細かな学習指導ができるように、現在進めております小中連携を深化させ、小規模であっても様々な学習や授業ができるようにしていきたいと思います。

３小学校を維持していくことでの試算について

議員　３小学校維持していくことについて、学校施設のうち半数以上が築30年、14％が築50年を経過しており、大規模修繕や長寿命化改修の必要性が生じてきています。

年間１億円以上のコストを想定していますが、現在の白子町の生徒数の動向を考えても現実的ではないと感じます。

町の行財政運営、学校経営の効率化の観点からしても、３小学校を維持していく経費と小中一貫校や統合等も想定した経費を試算すべきかと思いますが見解を伺います。

教育の予算は優先的に

町長　教育施設の老朽化に加え、新しい機能も必要になってきます。

そういうものを総合的に含め、長い計画を立て、どうあるべきかを考えていきます。

ただ、教育に対しての予算の投入は優先し、白子町だけではなく、国の動向も十分に調査しながらやっていきたいと思います。

ＧＩＧＡスクール構想について

議員　児童・生徒向けの１人１台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された創造性を育む教育を、全国の学校現場で持続的に実現するとしています。

我が町においては、１人１台の端末とネットワーク環境の整備を夏休みに行う予定でしたが、進捗状況について伺います。

来年４月稼働を目指し

町長　小・中学生に１人１台の端末の使用が可能となるように、７百50台を１月末に配備する予定としております。

また、学校で使用するソフトウエアの選定、端末の設定、補修業務等の契約を12月中旬に行い、本格稼働は来年の４月を目指しています。

補正予算等に対する 質疑応答

白子町手数料条例の一部を改正する条例の制定について 議案第１号

【市川隆子 議員】

議員 マイナンバー通知カードが廃止になり、なくした場合など、今後はどのような対応をするのか伺います。

また、マイナンバーカードの普及数も併せて伺います。

住民課長 通知カードはなくしても番号通知はします。普及数は２０５０件程度です。

令和２年度白子町一般会計第４回歳入歳出補正予算について 議案第３号

【大多和正之 議員】

議員 地域おこし協力隊ですが、専門業者に委託しないとできない事業なのか伺います。

また、専門業者に依頼する時は広い範囲で募集を行ってください。

総務課長 募集ＰＲの支援を行うものなので、専門業者に任せたほうが効率的と判断しました。

議員 今年度の修学旅行は小学校・中学校が共に中止になりましたが、子供達の思い出づくりと、白子町内のホテルもコロナの影響を受けているので、町内のホテルに宿泊していただき、コロナ対策、安全を第一に思い出づくりができないか伺います。

教育長 中学３年生、小学６年生については思い出が無くなってしまうので、学校ごとに保護者、学校管理者を含め、今検討している最中です。

【大多和秀一 議員】

議員 人口減少や高齢化の進む本町にとって、地域おこし協力隊事業は、地方の創生を考えると必要なものであると判断するが、どのような経緯で進めようとしているのか伺います。

町長 来年度の実施を目指しています。すでに多くの自治体がこの事業に取り組んでいますが、市町村によってかなりの格差があると聞いています。

さほどの成果も上がらず終了してしまった話も近隣町村から聞きましたが、法の改正もあり、地域の条件が合致すれば、迎えていきたいという思いから、その調査を兼ねて75万円の予算で企画したいと思っています。

【東海林東治 議員】

議員 地域おこし協力隊の募集については、明確な事業計画を示し、それを協力して頂ける人材を求める明確な趣旨を示す必要があると思います。

もう１点給食施設費の備品と思いますが補正予算に計上の施設費、備品の内容説明を求めます。

町長 どのような人に来てほしいか予算の中で精査し、迎え入れることができればと思います。

学校給食センター所長 今回の補正につきましては備品購入費でありまして、重篤なアレルギーの子供に対応できるシステムの導入を行いました。

給食食材の検収台が故障したために、新たな検収台の購入、調理器具のフードプロセッサー故障により新しく購入する合計金額を補正計上させていただきました。

決算審査特別委員会を設置

令和元年度白子町一般会計歳入歳出決算及び５事業特別会計歳入歳出決算の審査を行うため、決算審査特別委員会が設置されました。

この委員会は一般会計及び各特別会計決算の審査のための会議を行い、次の定例会に報告書が提出されます。

選任された決算審査特別委員会委員は次のとおりです。

委員長　石井　和芳
副委員長　北田　百人
委　員　大多和秀一
　　　　齋藤　鉄也
　　　　大多和正之
　　　　板倉　正道
　　　　齊藤　豊彦

※その他は、広報しらこ10月号をご覧ください。

コロナ感染対策を行っています

議会では、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、議会議員及び町執行部職員全員の検温、議場内でのマスク着用、飛沫飛散防止シートを設置するなどの対策を行っています。

今後も感染拡大防止策を行い、安全・安心な議会運営に努めてまいります。

▲ 新型コロナウイルス感染防止に取り組んでいる議場内の状況

町議会を傍聴しましょう。

次の定例会は12月10日～17日の予定です。

詳しいことは議会事務局へ。TEL33－2169
白子の議会についてご意見、ご感想をお寄せ下さい。

編集後記

新型コロナウイルス禍、感染再拡大が顕著なのは欧州で、一日の感染者が十万人を突破「注意せよ、手と顔と間隔に」を各人が心していきましょう。

東日本大震災の発生から10年、風化こそが最大の敵で、被災者の心の復興、人間の復興に終わりはないと思います。一瞬に家族を失い、その喪失を取り戻すことは至難のことと思います。

被災者が「忘れられているのではないか」と思うこと。これが人間の復興にとって最大の（敵）と思います。風化との闘いは「自身の内なる風化」との闘いであります。

本町においての避難訓練も「内なる風化」が年を経る度に顕著であります。震災の経験を後世に、世界に伝えていくこと、そして創造的復興が犠牲者に応える道だと思っております。

東海林　東治